令和８年度　第２回男女共同参画審議会　議事録要旨

開催日：令和８年９月１８日（金）
場　所：広陵町役場３階大会議室

出席者
審議会委員　７名
（４名欠席）
事務局　３名
傍聴　１名

◆次　第
１　開　　会
２　委嘱状交付
３　町長あいさつ
４　会長及び副会長の選出
５　会長あいさつ
６　委員の自己紹介（1 人 1～2 分程度）
７　議　事
・広陵町男女共同参画行動計画の更新について
・広陵町男女共同参画行動計画に基づく事業実施について
・男女共同参画計画の国・県と町の位置づけについて
８　その他

１　開会
１０時００分開会

２　委嘱状交付
代表で１名の委員に交付

３　町長あいさつ
委嘱状を交付させていただいたが、本審議会では、今後、広陵町の男女共同参画や女性活躍に関する内容を審議いただくに当たり、ご協力をお願いする。来年度は「広陵町男女共同参画行動計画」の更新になり、今年度に更新準備を考えている。

10 年振りに大きく計画が変わるものであり、多様な選択肢から、自らが自らの道を選択でき、活躍できる社会を基本理念に掲げ、性別による固定的役割分担意識にとらわれず、仕事や家庭において多様な選択ができ、男女がともにわかり合い、その選択を尊重し合えるまちづくりを推進することを目的としている現行計画の見直しを行う。

本町では、行政として、男性の育休取得促進や、女性活躍の観点から女性管理職が県内でも高い水準となっている。各審議会の女性比率も全体を見ると低いが、子ども、介護、環境保全、老人という分野で女性の割合が高くなっており、ある意味で役

割分担意識が働いていると考えている。本町として、「誰もが、誰にでも、優しくあれる町」は成長するのだという、新しい発展モデルを創っていくため、広陵町の持続可能な住みよいまちづくりのため、皆様のご協力を賜ることをお願いし、あいさつとさせていただく。

４　会長及び副会長の選出

会長、副会長決定

５　会長あいさつ

皆様のご協力を得て、役割を果たせるように進めていければと思っている。

先ほど、町長が仰った、広陵町に住んでいてよかった、若者が「頑張ればいい生活ができるようになる」と思えるまちにするために、様々な施策を考えていただいていると思う。

そのような、若者が希望を持てるような社会であることがとても重要だと思っている。

私自身は、文化人類学や社会学を専攻しているが、その分野では、今、日本は世界の中で停滞している、順位が低くなっていると言われている。

その理由として、新卒一括採用で年功序列の労働の仕組みであったり、家庭の中での男女平等が行き渡らず、社会全体でも男女平等が行き渡っていないことが挙げられている。

その背景には、国が古い仕組みを改めないまま、様々な制度を構築したことがあるので、男女平等はとても重要だと思う。

そういったことを念頭に置いた上で、来年度からの計画やこの審議会に新しい考え方を反映させていければと思うので、皆様それぞれの立場から、現場のご意見をお話いただければと思う。

６　委員の自己紹介

名簿順に自己紹介

７　議事１　広陵町男女共同参画行動計画の更新について

＜事務局説明＞

「資料１　広陵町男女共同参画行動計画の更新について」、「参考資料 1－1　広陵町男女共同参画行動計画達成状況調査シート」、「参考資料 1－2　広陵町男女共同参画後期行動計画成果指標達成状況一覧表」、「参考資料 1－3 【前回アンケート調査】広陵町男女共同参画に関する意識調査」に基づいて、広陵町男女共同行動計画の更新について説明。

＜委員意見、質疑応答＞

（委員）

参考資料１－２の成果指標達成状況一覧表の直近の達成度は、何年のものか。

また、アンケートについて、委員からの意見がなければ、このまま来年度、送付されるのか。

（事務局）

成果指標一覧表の直近の達成度は、令和7年度のものである。

アンケートについては、前回、令和4年度のものに、最低限の加筆をしているものであるので、ここから修正を加えていきたいと考えている。なお、参考資料 1－2 にある、「計画見直し時にアンケートを実施」と記載のある項目については、アンケート項目を変えずに実施したい。

アンケートについては、委員の皆様からもご意見をいただいて反映していきたいと考えているので、この場でなくても、資料をご確認いただき、後日でも意見をいただければと考えている。また、いただいた意見は、今年度もう一度開催を予定している審議会にて、修正したアンケート調査票をご覧いただけるように準備したい。

（委員）

アンケートの設問を確定させる最終的な時期は来年度に入っても大丈夫なのか。

（事務局）

可能であれば、次回の審議会で、アンケート案としておおかた完成できればよいかなと考えているが、来年度に入ってすぐに発送するものではないので、来年度に入って内容の協議をする場合はスケジュールを改めて調整させていただきたい。

（委員）

アンケートは郵送が原則か。

（事務局）

郵送が原則と認識している。

今のところ、前回であれば、無作為で 2,500 名の方にアンケートを送付している。

アンケート結果を計画に反映させるための分析も必要かと考えているところ。

先ほどの説明で、9年度の審議会のスケジュールをご案内したところで、回数は多いと感じられた委員もいらっしゃると思っているが、その審議会のタイミングや、お集まりいただけるかも含めてご意見いただきながら、アンケートを作っていければと考えている。

役場で勝手にアンケートを作って発送するということはなく、審議会の場になるのか、メールでのやりとりになるのかは相談させていただき、意見をいただきながら、作り上げていきたいと考えている。

（委員）

アンケートの4ページで、「仕事をしていない」と回答された方、とあるが、何を以て仕事としているのか、定義が必要だと思った。

家事も仕事だと捉えられるし、誤解を与えないような書き方が必要だと思う。

（委員）

何か、他の言い方に変えた方が良いという案はあるか。

（委員）

個人的には、家事も立派な仕事だと思うので、言い換えは何がいいのか難しい。

（委員）
「収入を得る仕事をしているか」という書き方でもしっくりこないのか。
それでは、今後の検討、ということにしたい。

（委員）
前回のアンケートは 2,500 名の方に送られたということだが、回答率はどれくらいだったのか。

（事務局）
前回は、2,500 名に配布し、回答が 994 件であり、回答率は 39.8%であった。

（委員）
今回も、同じような回答率、35%を目指すのか。

（事務局）
一般的な回答としての基準は 30%後半から 40%前後なので、その当たりを目指していきたい。

（委員）
以前に、事業所の実態調査ということで、関わったことがあり、悉皆調査というものを町内の全事業所に配布し、畿央大学の学生にも協力をいただき、手作りの地図で現地訪問で回答依頼をしてもらって、結果的に65%の回答率であり、中小企業の同業種などの全国組織では、全国トップの結果になった。
65%ぐらいまで回答率が高くなると、その結果、声というのは結構的を得ると思うが、35%だと、2,000 人のうち、700 人の方からしか回答を得られていないということになるので、それをもって、町民の声ということで決めつけない方がよいと思う。

（委員）
最終的には、前回の回答率は 39.8%ということだが、催促したものなのか、ネットと郵送の割合は分かるのか。

（事務局）
最終的な回答率は、催促した結果である。
郵送とネット回答の比率はすぐに出ないため、後日共有する。
→郵送 73.3%、ネット 26.7%

（委員）
アンケートは無作為で送られるということだが、設問が、仕事についてのものもあるので、子育て世代も意識されていると思うが、回答者の年齢を考えると 60 代以上が増加する傾向にあると思うので、男女共同は仕事の面だけで考えるのか、包括的に考える

のかで、設問や対象者を考えないといけないと思っている。
　また、スケジュール感として、このアンケート内容を協議できる審議会の機会はいつになるのか。

（事務局）
　スケジュール感については、今年度もう一度審議会を開き、アンケートについても協議させていただく予定をしている。
　来年度についても、アンケート実施前、4月頃を目途に、委員皆様にご覧いただく機会を設ける予定。加えて、メールや郵送などで意見を伺うことも検討している。
　前回のアンケートは、18 歳以上の方に回答をいただいた住民アンケートに加えて、25 歳以上 74 歳以下の女性を対象にした女性の働き方に関するアンケートも実施している。後期計画にも記載しているのでご覧いただければと思っている。
　男女共同については、働く世代だけでなく、避難所の運営を見ても、区長自治会長や、高齢者の方も運営に携われるので、そこで、女性目線の避難所というものはどのような配慮が必要なのか、など知っていただくことも必要だと考えている。そのため、住民アンケートについては、対象を広くさせていただきたいと考えている。一方で、働くというところにも焦点を当てる必要があると考えるので、こちらは別途検討させていただく。

（委員）
　アンケート実施に当たって、回収率を上げていくのは大きな目標であると思う。
　回収数が増えれば、働く年代の回答と、それ以上の年代に分けて分析することも可能だと思う。

議事２　広陵町男女共同参画行動計画に基づく事業実施について

＜事務局説明＞

「資料2　広陵町男女共同参画行動計画に基づく事業実施について」に基づいて、これまでの取り組みについて説明。

＜委員意見、質疑応答＞

（委員）
　質問ではないが、今年度予定されている、セミナーで防災を取り上げていただくということは、防災に携わってる者からすると非常にありがたいと思う。
　いつも訓練や練成大会など様々なイベントもしているが、参加者の 8 割は男性というのが現実で、自主防災会という組織も基本的には充て職になってるようなところにも問題があると感じているが、この防災セミナーをするにあたって講演もちろん大事だと思うが、ここに書いていただいている内容のところの、避難所運営ゲームや災害対応タイムラインなど、話を聞くだけではなく、自ら体験するような体験型の催しも併せてお願いしたい。基本的に防災というのは、話を聞くだけでは、身につかない。自分が参画して初め

て身につくものと思っているので、その辺を先生と調整いただければと思う。また、個人的にはこの先生と話をしたいなと思うところもある。

（事務局）
内容については、防災部局も交えて、講師と調整したい。体験的な要素は取り入れられるよう、要望したいと思っている。
行政が行事を主催すると、参加者を集めるというのが大変で、今回も子育て世代の女性の方に参加いただくことを目標とするが、行政の案内だけでは不十分であると感じているので、広報などでは周知するが、委員皆様にもお口添えいただいて、その声掛けで多くの方に集まっていただく非常に大事なことになるかと思っている。
このセミナーは初めて男女共同参画の事業として実施するので、委員皆様のお力もお借りしたいと思っている。
開催時期は、寒い時期にはなるが、2 月または 3 月で計画をしているところ。
日程が決まれば、委員にはお知らせさせていただく。

（委員）
2月や3月は各種団体や地域の会議を設定されているところが多いと思うので、日程は早めに連絡いただきたい。

（委員）
家族（男女）共同の家事・育児を考えるワークショップというのは、今年度は実施されなかったのか。来年度以降も実施されないのか。

（事務局）
開催をお願いしていた NPO 団体の活動が縮小・休止に向かうような動きを取られているため、別のことを考えたいと思っている。

（委員）
満足度も高く、参加者数も多いので、横の繋がりを作るということで、こういう場をきっかけに繋がっていくママさんパパさんがおられるかと思うので、違う形でも実施されたい。
町であれば、なかよし広場など、子育て応援の施策をされているので、その方々に応援していただくなど、子どものイベントが並立していると親が動きやすいと思うので、そういった企画を考えてみてはどうか。

（事務局）
この NPO だが、このワークショップ以外に日常的に子育ての相談会もされており、その繋がりもあって、応募者が多かった。
パパママの相談事というのは、外に発信、発言することでリラックスできたり、共感を得られたりするので、この企画はよいものになっていたと実感している。
役場で子育て世代の方を集めることはハードルが高い部分ではあると思うが、今後も

違う形で続けられればと思っているので、検討していきたい。

（委員）
　なかよし広場というのは、どういう方が主催されているのか。

（事務局）
　町の事業で、子育て中の親子が気軽に集まり、自由に交流出来る場として、提供しているもので、民生委員の方や元保育士の方にも協力いただいて、子どもも自由に遊ばせられるものと認識しており、子どもだけでなく親同士のつながりもできる場として提供している。
　ご提案いただいたように、住民の皆さんとも協力していただきながら、何ができるのかを検討したいと思っている。
　元々実施していたこのワークショップは、前半に子どもと一緒に遊ぶ機会があって、その後、スタッフさんに子どもの面倒を見ていただきながら、同じフロアで、エリアを分けて、パパママはワークショップをするもので、ワークショップの内容は、お互いの情報交換やお困りごと聞いたり、アイディア交換をしていただいたりという事業であった。
　何かの形で続けれるような、検討はしたいと思う。

（委員）
　子育て包括支援センターがあるのであれば、その方たちも助けになるんじゃないか。

（事務局）
　子育ての部局とも相談して、事業として何かできたらいいなと思っている。

議事３　男女共同参画計画の国・県と町の位置づけについて

＜事務局説明＞

「資料3　男女共同参画計画の国・県と町の位置づけについて」に基づいて、男女共同参画計画を取り巻く国・県と町との関係性について説明。

＜委員意見、質疑応答＞

（委員）

　少しでも男女共同参画が進むよう、国も県も広陵町でも計画を立てて実施され、いろんな話し合いして、進めていただいてるが、町民の方に浸透してないような感じを受けている。
　今日もこの会議の前に小学校の PTA の会議に出ており、中座する際に、この審議会に参加すると言っても、誰も認識していない様子だった。せっかくいい取り組みをしてるのになかなか認知されてないと感じている。
　この役職をいただいて初めてこういった会議が開かれていることを知ったので、行政にも、もっと発信していただいて、認知されていないような層にも届けられればと思っている。

防災セミナーでは、子育て世代がターゲットということだったので、ぜひ小中学校やこども園などにポスターやチラシの配布があればいいのかなと思った。

また、若い世代の方は、町の情報を LINE で知ることも多いので、LINE でも頻繁に情報を流していただきたい。

防災セミナーは土日に予定されており、子どもが小学生くらいになると習い事などで家族総出になることも聞いているので、何か子どもを引きつけるようなきっかけがあれば、親子での参加率も上がると思うので、参考にしていただければ。

（委員）

広陵町は防災の分野では、他市町村に比べて進んでると思っている。

現在、防災士ネットワークで会長職を担っているが、広陵町では 160 人ほどの防災士がおり、人口規模でいうと、奈良県でトップぐらいの防災士の資格率である。

また、消防団にも入っており、広陵町には、女性消防団広報指導分団という組織があり、県内では先駆けて、平成 17 年に女性消防団という組織ができた。それを見習って近隣市町で女性消防団が組織されたので、そういったことを考えると、そういう意味では、広陵町は女性消防や防災に関する女性の進出というところは、他市町村に比べて進んでいると自負している。しかし、そのことを、どうやって広めていくかというところが課題であり、危機啓発活動で小学校で訓練も行ってもらってるし、イズミヤで防災訓練でもやっていただいており、地域の方の目には触れていただいているとは思うが、それをどうやって男女平等という観点で、防災力を高めるかというところにも繋げられればと思っている。

（委員）

先ほど言われた、発信をもっとしてもらえれば、人々に届くんじゃないかということだったが、男女共同参画という言葉が分かりにくいのか。

（委員）

共働き世帯は確かに増えているので、お父さんもお母さんも仕事に行っていて、PTA 活動を見ても、男性が役員としておられる学校もあるが、役員はほぼ女性である。

仕事との兼ね合いで PTA 活動に参加できない家庭が増えていって、次の役員も決まらない現状である。

県内の PTA でも女性比率が高く、このことも、子育ての男女平等というところにもリンクしてくるのかなと感じている。

男女共同参画という言葉については、漢字が並んでおり、その名称から、具体的なところが見えづらい部分があるのかなというところなので、柔らかい表現で、ジェンダーレスにやってますよということが伝われば理解していただきやすいのではないかと個人的に感じている。

（委員）

この資料を見ても、国は一貫して男女共同参画という言葉を使っており、国際的な場では、ジェンダー平等という言葉を使っている。

ただ、奈良県では、ジェンダー平等という言葉をずっと使っているように読める。
男女共同参画も使ってはいるが、ジェンダー平等の方がわかりやすいのか。

（委員）
個人的には行政が主体的に行っていることは自分事として捉えていない方が多いと感じている。私自身も、充て職として、この会議に参加させてもらっているが、小学校に戻ったときに、どれだけの人が興味を持ってもらえるのかと言うと難しいところがあると感じている。

（委員）
実は、女性が置かれた状況がまさに男女平等を反映してないのにも関わらず、自分と関係ないと思ってしまっているということなのだろうか。

（委員）
色々思いながら皆様のご意見を聞かせていただいていたが、言葉の中の意味が、イベントを実施するとか、そういうところで、変わっていくのかというのが、どうなのだろうと思いつつ、男女平等という言葉を聞くと、自分の中で女性を守り、男性に代わってもらうみたいな、イメージが張り付いてしまっていて、みんなで幸せになりましょうみたいなイメージの言葉だったら嬉しいなと、ジェンダー平等の言葉を聞いて、感じたところ。
参加者数が多かったイベントがあったが、これも日頃の関係性とか日頃のあり方みたいなものが満足度とか、そういう繋がりを産むこと等に繋がるんだろうなと思い、自分が出来ることをやりたいなと思った。

（委員）
言葉というものは、なかなか広がらないと感じている。障害者を例に出すと、知恵遅れと言われていたところから始まって、精神薄弱と呼ばれ方が変わり、今は知的障害や発達障害と言われており、言葉は変遷されていっている。
自分自身、内容が変わらなかったら言葉が変わったところで、何も変わらないだろうという気持ちを持っていたときもあるが、やっぱり言葉とともに捉え方も変わってくるということも最近感じるところなので、難しい言葉ではなく、分かりやすいということは、大事かなと思う。
ただ、そう感じる人がたくさんおられるかというとそうではなく、自分の身の回りのことが変わっていくことで、変わっている実感を持たれる方もたくさんいらっしゃると感じている。
地域で問題意識を持っておられる方がたくさんおられれば、男女共同参画にしても言葉がどうか、ということは気にならなくなる、共通言語になると思う。
しかし、現実はそうではないので、ワークショップでの意見もあったが、参加してみてこれが男女共同参画なのかと後で思うこともあると思っている。
イベントやセミナーなど、小さなことから、コツコツすることで、意識は変わっていくと思っている。

そして、男女共同参画において、男性の意識を変えていくことに主眼を置かれることが多いが、女性の意識も変えていかないといけないと感じている。家事も育児も仕事まで担っている女性が多いと感じているが、潜在的にこれが当たり前だと思っている女性の意識を変えていく必要があるのだと感じている。

そのためには、教育が必要だと思っており、そのような場を作っていかないといけないと思っている。それが町の役割でもあり、私達委員の役割でもあるかなと思っている。

8 その他

＜事務局連絡＞

・委員報酬について

・第3回の日程調整について→2/16 か 2/24 のどちらかで欠席者にも連絡の上決定する。

・セミナーについては、2月か3月の土日に予定を予定しているので、前後する可能性がある。講師の都合もあるが、どちらになっても、有効的に審議会を実施できればと考えている。

・その他、アンケート調査票について、メール等でご意見等をお願いしたい。

9 閉会

12時00分 閉会

以上